

第13回

J-クレジット活用事例 - (社)愛知県トラック協会
「みんなで学ぼう!トラックと交通安全・環境フェア」

先回に続いて、イベントのカーボン・オフセットにおける中部産 CO2 クレジットの活用事例を紹介いたします。

一般社団法人愛知県トラック協会(以後、愛ト協)は、愛知県内のトラック運送事業者が相互信頼のもとに団結を強め、業界の発展と公共の福祉に寄与することを目的として設立された公益法人です。

愛ト協では、毎年秋に、人々の生活や産業を支えるトラックのはたらきについて、交通安全や環境対策と共に親子が楽しく学べるイベント『みんなで学ぼう!トラックと交通安全・環境フェア』を開催しています。第12回目となる今年は、10月2日(日)豊田スタジアムで開かれ、小学生とその保護者を中心に約3万人が来場しました。

イベント開催日は、Jリーグの試合と同様に勘八臨時駐車場と名鉄トヨタホテル前から豊田スタジアムまで無料シャトルバスを運行。愛ト協では、このシャトルバスの運行、ならびにイベントで出たゴミ処理において排出される温室効果ガス 2t を中部産 CO2 クレジットの活用でカーボン・オフセットいたしました。

トラックの環境対策といえば、排出ガス規制や燃料消費の節減が思い浮かびます。愛ト協としても排ガス規制の徹底しており、また、エコドライブの推進を目的に開催している『省エネ走行競技会』は今年5回目を数え、年々競技レベルが上がってきています。

しかし、地球環境負荷の原因となっているのは、何もトラックや自動車だけではありません。すべての人間も生命活動によりCO2を排出しており、少なからず地球環境に負荷をかけながら生きています。その感覚を特にこれからの社会を担う子どもたちは、小学生の頃から肌感覚で理解しておくことが望まれます。

愛ト協では、こうした背景を踏まえ、当イベントを通じてトラックの環境対策を学んでもらうと同時に、わが身の事としてカーボン・オフセットの仕組みに触れていただきたく、その機会を提供するに至りました。

今回は初の試みということで、J-クレジットの活用資金は直接愛ト協から拠出されましたが、事前の検討段階では「来場者からの募金によって資金を集める」あるいは「来場者にアルミ缶を持参してもらい、それをリサイクル事業者に買い取ってもらった資金で賄う」といった来場者参加型にするなどのご意見もありました。来年以降、それが実現できれば、J-クレジットの活用をきっかけに、“みんなで学ぶ”

環境フェアとしての側面がより強く訴求されたイベントとなりそうです。

中部経済産業局では中部産 CO₂ クレジットプラットフォームを創設して、J-クレジットの創出・活用に関する様々な支援を実施しております。気軽にご相談ください

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform.html>

(ソフト支援事業実施機関)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 名古屋

担当:松田、長尾、林田、有馬、大坪、小森

〒461-8516 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30

電話 052-307-1102

中部Jクレ コラム バックナンバー

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>

[第1回]地球のために1トン数千円から

[第2回]削減したCO₂を売るには? ~J-クレジット制度活用のポイントあれこれ~

[第3回]クレジット購入企業の社長に聞く ~株式会社アユセン~

[第4回]教えて! CO₂クレジットの売買

[第5回]北陸の温泉旅館におけるヒートポンプ導入によるCO₂削減事例

~株式会社ふくみつ華山温泉~

[第6回]カーボン・オフセットを活用した商品開発

[第7回]平成28年度 J-クレジットの動向

[第8回]省エネにつながる設備投資をしたのですが、J-クレジット化できますか?

[第9回]J-クレジット制度×学生のコラボレーション

[第10回]J-クレジット制度説明会でのQ&Aのご紹介

[第11回]カーボン・オフセットを活用して地球温暖化対策の意識啓発を

~自治体の取り組み~

[第12回]J-クレジット活用事例ー愛知県主催「Let's エコアクション in AICHI」ー
